

日本人サッカー選手の海外マーケットポジショニング

日大生産工（学部） ○浅川 裕紀 日大生産工 大江 秋津

1 まえがき

近年、海外で活躍する日本人サッカー選手が増え、海外マーケットポジションを確立しつつある。しかし、日本人サッカー選手は技術・体力は海外選手に劣っていないが、突出した武器がない¹⁾とされ、専門性が高いポジションの選手の評価は低く、歴代の海外移籍した専門性の高いポジションの選手で活躍した人は少ない。本研究は、分野横断型能力を持つポジションとそうでないポジションが日本人サッカー選手の海外マーケットポジショニングに与える影響を実証する。

2 理論と仮説

(1) 分野横断型能力

先行研究では分野横断型能力を持つ組織の環境への適応性の高さや、チームワークの良さが指摘される²⁾。こうした能力を支えるため、構成員にも組織境界を越えたコミュニケーションや協力が求められ、分野横断型能力が必要となってきた²⁾。この能力の評価が高い理由は、まず決断を下す際に、様々な分野の知識を持つため、最適な判断を下せるからである³⁾。次に、組織内の個人が持つ分野横断型の様々な知識、経験を統合できる能力を持つため、組織全体の高いコミュニケーションやチームワークを形成でき、新製品、サービスにつながる³⁾。このように組織だけでなく、構成員も分野横断型の知識を持つことで、より高いパフォーマンスが期待できる。

(2) 言語の壁と知識吸収能力理論

母国語が異なる人の集まる組織を多言語チーム (Multinational team (MNT)) という。MNTは海外のサッカーリーグで増えており、所属選手 31 人の国籍が 15 カ国のチームも存在する。MNT における言語の壁は、協力する精神や生産性やパフォーマンスを大きく下げる⁴⁾。海外進出する日本人は多少なりとも、言語の壁に直面し、受け入れ組織も同様の問題を抱える。これを乗り越え、日本人が高い成果をあげるためには、分野横断型の知識が重要であると考えられる。

これを説明する理論として、知識吸収能力理論がある。この理論では、自身が保持する知識とのオーバーラップが無いと、新しい知識を吸収できないとしている⁵⁾。分野横断型の知識は、そうでない知識に比べて様々な知識とオーバーラップを持ちやすい。その結果、分野横断型の知識を持つ人材は、MNT 内の新たな知識を吸収しやすく、組織への同化能力に優れているといえる。以上から、MNT で言語の壁を乗り越え、仲間と協力関係や信頼関係を築いて高いパフ

フォーマンスをあげるためには、分野横断型能力の活用が重要である可能性がある。

(3) 日本人サッカー選手の海外での需要

日本のプロリーグであるJリーグは1993年に設立され、設立当初は海外移籍選手が少なかった。しかし、Jリーグ所属の外国人選手や監督により、海外クラブとのネットワークが形成され⁶⁾、以前より日本人選手が海外移籍するチャンスが増えた。しかし、日本人が海外移籍するポジションは、主要な4つのポジションのうち、ミッドフィルダーが多い。ミッドフィルダーは、他のポジションに比べ、攻撃と守備の両面の技術を必要とし、両者をつなぐポジションである。つまり、分野横断型能力を持っていることで、チームの戦略や環境に早く適応ができ、即戦力として試合に出られると考えられる。このことから、即戦力として試合に使える日本人のミッドフィルダーは、高い専門性を求められる他のポジションよりマーケットポジションが高いと考えられ、次仮説を提示する。

仮説 1: ミッドフィルダーが海外移籍すると活躍する

仮説 2: 海外移籍前に日本代表で出場しているほど移籍後に活躍する

仮説 3: ミッドフィルダーが海外移籍する際、移籍前の実績があるほど活躍する

3 データと分析手法

本研究では、2008 年から 2015 年に海外でプレーする現役のプロサッカー選手 20 名の最初の海外移籍後 3 年間のパネルデータ⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾を利用して、重回帰分析を行った。従属変数は活躍を説明するため、海外移籍後の出場試合数とした。独立変数は、ミッドフィルダーダミーと海外移籍前の日本代表実績とした。コントロール変数は、海外移籍前の成績、移籍時の情報、身体情報を使用した。

4 結果

表 1 は、重回帰分析の結果である。変数内の相関の最大値は 0.66 とやや高く、多重共線性を示す指標である VIF の最大値は 4.3 で、閾値の 10 以下であるため問題はない¹²⁾。モデル I はコントロール変数と独立変数で、モデル II はモデル I にミッドフィルダーと海外移籍前の日本代表出場時間の交互作用変数を加えた。

Japanese Soccer Player's Position in Global Market

Yuki ASAKAWA and Akitsu OE

結果は、ミッドフィルダーと移籍前の日本代表出場時間は、共に有意であり、仮説1、2は支持された。特に、独立変数のミッドフィルダーの係数は高く、非常に強く効いていることがわかる。モデルⅡは、独立変数と交互作用変数が全て有意となり、交互作用効果をみるため、グラフにプロットした(図1)。その結果、ミッドフィルダーは移籍前の日本代表出場時間が多いほど出場試合数が多くなった。他のポジションは日本代表出場時間が多くても出場機会は微増する程度だった。そのことから、ミッドフィルダーは移籍前の実績があるほど、移籍後の出場機会が増えることを実証した。

表1 重回帰分析の結果

変数名	海外移籍後出場試合数	
	I	II
1 プロになった年齢	0.32 [0.87]	1.16 [0.93]
2 移籍前オリンピック経験	- 1.90 [3.54]	- 5.26 [3.75]
3 J1新人王	8.70* [4.58]	8.17* [4.30]
4 移籍金(万円)	0.47* [0.24]	0.45** [0.23]
5 日本代表年間出場試合数 あたりの平均ゴール数	- 10.56 [6.88]	- 11.82* [6.68]
6 体重	1.08*** [0.33]	1.12*** [0.31]
7 ミッドフィルダー	15.60*** [4.36]	11.27** [4.67]
8 日本代表出場時間 (海外移籍前)	0.01** [0.00]	0.01*** [0.00]
9 MFと海外移籍年齢 の交互作用		0.03* [0.01]
10 定数	- 72.08** [28.19]	- 89.31*** [27.93]
Observations	60.00	60.00
R ²	0.58	0.69

* $P < .10$ ** $P < .05$ *** $P < .01$, []は標準誤差

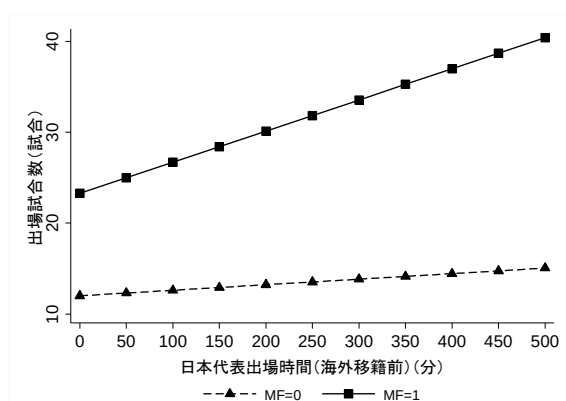


図1 交互作用効果のグラフ

5 考察

本研究の主要な貢献は3点ある。まず、分野横断型能力を持つポジションの選手は、海外移籍後に活躍しやすく、海外マーケットで高評価

を得られる可能性を示した。次に、海外移籍前の実績がその効果を高めることに、強く影響することを実証した。最後に、分野横断型能力を持たないポジションの選手は、実績を積んでも、海外移籍後の活躍はさほど変化しないことも実証した。以上は、MNTに日本人が参加するためには、過去の実績と分野横断型能力が重要であり、これにより言語の壁を乗り越えられる可能性も示したことで、理論的貢献となる。同時に、実績を積んでからのMNTへの参加は、その後の活躍を高め、海外へ人材を送り込む企業の人材選定時の示唆となり、実務的貢献ともいえる。

本研究の限界は、データを現役選手に限定したため、やや少なく、今後、データ件数を増やして、より説明力の高い分析をすべきである。また、本研究はコントロール変数に攻撃に有利な指標は存在するが、守備に有利な指標が無い。他のポジションでも同様の分析をするためには、守備に関する指標を増やす必要がある。

以上の限界は、本研究がサッカー選手の海外移籍データを用いて、日本人がMNTにおいて高いパフォーマンスを発揮できる重要な要因を見出したことを損なうものではない。

「参考文献」

- 1) サッカーキング『日本人プレーヤーがリーグで成功できない理由』
<http://www.soccer-king.jp/> (2015,7,21)
- 2) Sheth T. Recruiter's diary and senior exec's guide to cross-functional shifts. Asia Africa Intell Wire, (2002). PNA.
- 3) Schelfhaudt, K, and Victoria L. C. "Specialist or generalist: Views from academia and industry." Journal of Business Research 58.7 (2005) p946-954.
- 4) Hinds, P. J., Neeley, T. B., & Cramton, C. D. Language as a lightning rod: Power contests, emotion regulation, and subgroup dynamics in global teams. Journal of International Business Studies, 45, (2014) p536-561.
- 5) Cohen, Wesley M., and Daniel A. Levinthal. "Absorptive capacity: a new perspective on learning and innovation." Administrative science quarterly (1990) p128-152.
- 6) 高橋義雄, "日本人Jリーグ選手の国際移籍の要因に関する研究" スポーツ産業学研究, Vol.14, No.1, (2004) p13-22.
- 7) SANSPO.COM『サッカー/日本人選手一覧』
<http://www.sanspo.com/> (2015,7,15)
- 8) goal.com『サムライ』
<http://www.goal.com/jp> (2015,7,20)
- 9) 日刊スポーツ『海外サッカー/日本人一覧』
<http://www.nikkansports.com/> (2015,7,15)
- 10) サッカー日本代表データベース『選手リスト』
<http://www.japannationalfootballteam.com/index.html> (2015,8,5)
- 11) JLEAGUE.jp『Jリーグ年間表彰式』
<http://www.jleague.jp/stats/> (2015,8,3)
- 12) Belsley, D. A., Kuh, E., & Welsch, R. E. Regression diagnostics: Identifying influential data and sources of collinearity. , Wiley. (1980)